

■食塩濃度屈折計 1-5436-21, 22

■測定上の注意

1. 測定サンプルについて

屈折計は液体に溶け込んでいる全ての成分の影響を受けるため、サンプル中に塩分以外の成分(糖・タンパク質・アルコール・酸等)が溶け込んでいると正しい塩分濃度%が求まりません。

測定の際は、サンプル中に塩分以外の成分がほとんど溶け込んでいない事を確認してください。

2. 自動温度補正について

本器は自動温度補正機能を有しており、温度によって目盛板が自動的に移動するので温度補正をする必要がありません。

自動温度補正は屈折計の温度(≒環境温度)によって作動しますので、サンプルも本器と同一環境の温度下にある場合を想定しています。加温されたサンプルや冷蔵庫内等にあったサンプルは、常温に戻してから測定するか本器のプリズム上で1～2分放置してから測定してください。

3. 点検について

屈折計を正しくご使用するために、定期的に(例:1～2ヶ月に1回)点検を行ってください。

①プリズム面の汚れやキズ等の有無を確認してください。

②蒸留水または水道水をプリズム面に滴下して接眼鏡を覗いて下記を確認してください。

●境界線に曲がりがないか

●境界線視野に目ざわりなゴミ・汚れ・水滴等がないか 等

③必要に応じ、蒸留水または食塩水を測定して測定値が正しいかどうかを確認してください。

(蒸留水の場合は測定値(境界線)が $0.0 \pm 0.2\%$ 以内であることを確認)

④測定値が正しい範囲から外れているときは、本体下部の目盛規正ネジを付属のドライバーで回して規正を行ってください。

4. その他

①保管時は必ず $0 \sim 40^{\circ}\text{C}$ の乾燥した場所に保管してください。特に直射日光に当たる所には絶対に置かないでください。

②体温による屈折計の上昇を防ぐためにグリップ全体を握らないようにしてください。

また、屈折計底面の突起部分を握ると自動温度補正機能に影響を及ぼす場合がありますので、あまり触れないようにしてください。

③サンプルが強く濁ったり着色している場合は視野が暗くなり、境界線が不鮮明になったり全く現れない場合があります。

このような場合は、太陽光や顕微鏡用の照明装置等の明るい光源を利用すると効果的です。

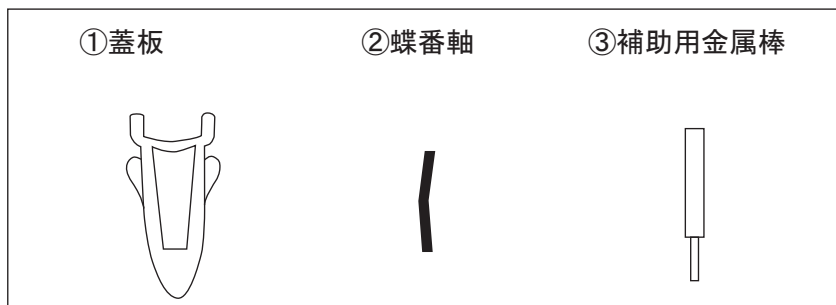
④測定後は水を含ませたティッシュペーパーでサンプルをよく拭き取ってください。

⑤プリズム面が油等で汚れた場合は、エチルアルコール等でよく拭き取ってください。

⑥プリズムに傷をつけないようにしてください。ティッシュペーパーは柔らかいものを使用してください。

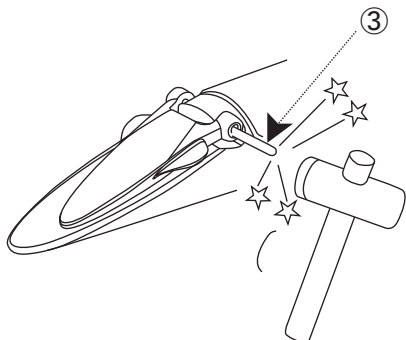
⑦本器には精密に調整された部分がありますので、強い衝撃を与えないでください。

■MASTERシリーズ用蓋板 交換方法



1

左側の穴から蝶番軸に補助用金属棒を当て、ハンマー等で軽く叩いて蝶番軸を出します(図1)。



蝶番軸が抜けたら蓋板を外します。



2

新しい蓋板を取り付け位置に正しくセットし、新しい蝶番軸を打ち込みます。蝶番軸は片側が細くなっていますので、細い方から入れてください。打ち込む際は右側から行ってください(図2)。

